

「ある日の電話」



一般社団法人 栃木県手をつなぐ育成会
会長 小島 幸子

いつも栃木県の育成会を応援していただきありがとうございます
コロナ禍でメールやオンライン会議など前より増して利用が伸びていますが、私は電話も
良く使います

「こうこさん、今いいですか？」可愛い後輩からの電話です
後輩は、いろんな事情により県育成会の賛助会員で機関誌「手をつなぐ」を購読してもらっ
ています。個人的には今後、このような会員が増えるのでは？と考えています
良く聞いてみると、思春期の娘さんの特別支援学校の制服で悩みを抱えているお友達の話
でした。

「全国の育成会のお友達の状況を聞いてみるね！」
そう言って私は電話を切りました。特別支援学校の制服には私も悩みました
31歳の息子は感覚過敏があり、中学部、高等部時代ワイシャツはもちろんポロシャツの襟、
ボタンが苦手です。体もすごく大きいので採寸してもらい特注でした。ズボンは総ゴムにし
てもらいました。暑がりなので式典の時しかジャケットは着ることが出来なくて、冬は白の
トレーナー、夏は白のTシャツで通学しました。中、高等部の時は自傷が激しく白のシャ
ツが赤く染まり洗濯が大変でした。おっと私の思い出話がテーマではありません（笑）

全国の育成会の会員で、私がお会いしたことがあるお子さんが今、在学中、もしくは卒業
して間もないお友達にメールで制服のことを聞いたところ、皆さんすばやく返信して下さ
いました

驚いたのは制服がない特別支援学校が多いということ。その他の情報も後輩に伝えました

「すげー」後輩らしい第一声（笑）そして

「育成会。入って良かった」「こうこさんに知り合えて良かった」と

後輩は、障害のあるお子さんの他にきょうだいもいて普段の暮らしも大変なはずで
それでも友達の悩みに熱くなり、私に相談して来ました

こんな人を栃木県で増やしていきたいとしみじみ思いました

学校のことだけでなく私達の子どもの環境には、いろいろな困難なことがあります
小さな取組からみんなで力を合わせて未来につなげたいと思います